

あったか  な 人と心が きづくまち

<井ノ口>

○○○ 井ノ口 ○○○

井ノ口地区は、安芸川河口より約4 km上流に位置する平野部で、東は安芸川、西は明見山に囲まれたのどかな田園地帯が広がりハウス園芸が盛んな地区です。

三菱グループの創始者である岩崎弥太郎の生誕地であり、その生家には多くの観光客が訪れ地域を賑わせています。また、弥太郎ゆかりの星神社には、「吾れ志を得ずんば、再び帰りにてこの山に登らじ」の誓いの言葉が刻まれています。

地区社協が行うミニデイサービスは、地元小学校との連携により、子どもと高齢者のお互いの学びの場、交流の場になっています。



★ 井ノ口地区の人口・地域福祉資源の概況 ★

世帯数	人口	65歳以上				介護認定者	障害者	子ども
		高齢者数	高齢化率	独居	世帯			
935 世帯	2,210 人	708 人	32.0 %	108 世帯	87 世帯	114 人	157 人	218 人

社会資源	主な 公共施設	公共施設等	井ノ口公民館 井ノ口駐在所	集会所	一ノ宮 宮ノ上 国重 黒岩	高台寺 松原 横立
		学 校	井ノ口小学校			
		保育所等	井ノ口保育所			
	福祉・保健・医療施設等 (高齢者等)		訪問看護ステーションホームケアサービス			

★ 井ノ口地区のいいところ ★

- 「支えあいは声かけから」と、日頃から声かけやあいさつ、誘い合いがある地区です。
- 地区の行事には若い世代や男性の参加者も多く集まります。
- 井ノ口地区社協のミニデイは、高齢者が集まり楽しく元気が出る場所として定着しています。
- とうや（当屋）が、お宮の行事や部落の活動など頻繁に声をかけてくれ、周りのことを気にしてくれます。（※当屋・頭屋：神社や会合等において行われる祭礼や神事などの行事に関して、世話人や中心的な役割を果たす人もしくは家のこと。）
- 地域全員がもてなしの心をもって、岩崎邸などに訪れる人に誰でも気持ちよく接してくれる地区です。

★ 井ノ口地区の気になること ★



であい～拠点～

- 行事を行う人手が足りない。
- 若い人が活動に参加してくれない。
- ミニデイのスタッフの高齢化が進んでいる。
- 婦人会など、団体への参加者が伸びない。

- 地区民運動会のお疲れ会には地域の若い人も集まるので、この時が人を知るきっかけとなっている。
- 地域の行事に運営委員が積極的に声をかけ合っていこう。
- お宮の掃除は人が集まる。いい機会。
- 各地区でミニデイなどでできれば、身近な人同士で見守りもできる。
(予算措置が必要)

ふれあい～共生～

- 地区の若い世代は働いているので、交流する機会が少ない。
- 世代間の交流が少ない。

- 保育園児や小学生に百歳体操に来てもらって、交流をしたい。
- 地域での伝統行事は交流の場にもなるので、続けていきたい。
- 老人クラブの活動に百歳体操を取り入れてほしい。

かたりあい～協働～

- 自主防災会の伝達が隅々にまで行き届いていないし、どんな活動をしているのか分からない。(部落によって伝達の仕方が違う。)
- 広報誌、公民館だよりだけでは参加のきっかけになりづらい。(直接会って口コミで教えてもらいたい。)

- 情報の共有と伝達の仕方を考えていく必要があると思う。
- 各部落に集会所があるので、行事の前には話し合いが行われている。
- 声のかけ合いが行事の参加につながりやすいと思うので、団体での活動等の時に情報交換をしている。

ささえあい～共助～

- 自主防災組織が井ノ口全体で1つしかない。
- 通りに人が少なく、学校への通学が心配。
- 買い物する場所がなく、ゴミの収集場所も遠いので、自分でできなくなった時のことを考えると不安。
- 高齢者や認知症の方が増えてきているが、どう声をかけていいか、どう支えていいか分からない。

- 地域で、子どもや高齢者も見守っていく方法を考える必要がある。
- できる限り自分のことは自分でやっていきたい。
- 小学校では声かけ運動を実施して、防犯につなげている。
- 認知症について勉強したい。

★ 井ノ口地区で取り組んでいくこと ★



1. 出会いのための人づくり・場所づくり

項目	事業・取り組み		
	短期（1年）	中期（3年）	長期（5年）
障害者・高齢者の集い活動の実施 （ミニデイサービス等交流活動の充実）	高齢者が楽しく参加できるミニデイサービス参加者を増やしていく。	子ども、高齢者が福祉活動へ参加し、ふれあい活動や生きがいづくりの場としてミニデイサービスの充実を図る。	

2. 認め合い・理解し合える意識づくり

項目	事業・取り組み		
	短期（1年）	中期（3年）	長期（5年）
多世代交流活動の実施	親子が地域行事に参加してみることをきっかけに地域の交流を深める。 （地区民運動会の競技種目を見直し、子どもが参加できる競技を増やす。）		多世代間の出会いの機会を増やし、活動拠点として、「公民館は、地域の窓口」の定着を図る。

3. 暮らしを支える福祉のネットワークづくり

項目	事業・取り組み		
	短期（1年）	中期（3年）	長期（5年）
地域性に応じた地区社協機能の強化 （地区社協活動の活性化）	地区社協を中心に、各部落単位での福祉制度の学習会の開催や、民生児童委員活動の周知を図っていく。	各部落の情報が共有され、福祉ニーズを専門機関につなぐことのできるネットワークづくりに取り組む。	民生児童委員による訪問と、地区社協での相談活動を通じて、地域で相談支援の体制を築く。

4. 地域で安心・安全に暮らしていくための体制づくり

項目	事業・取り組み		
	短期（1年）	中期（3年）	長期（5年）
緊急時の役割分担と連携体制の構築 （小単位での自主防災組織化）	避難する場所や避難経路を部落単位で住民一人ひとりが考えることをきっかけに、小さい単位の自主防災の組織化を目指す。		要援護者を、小地域で見守る「見守り隊」の活動につなげていく。